

## 7. バリック・ゴールド社(Barrick Gold Corporation)

### 1. 企業概要

本社	カナダ・トロント
主要事業	非鉄金属鉱山
従業員数	4,685 人
決算日	12 月末日

### 2. 財務状況 (US\$ million)

	2002 年	2001 年 <sup>1</sup>	2000 年
売上高 Gold sales	1,967	1,989	1,330
当期損益 Net income (loss)	193	96	(766)
資産 Total assets	5,261	5,202	4,535
流動資産 Current assets	1,352	1,014	865
負債 Total liabilities	1,927	2,010	1,512
流動負債 Current liabilities	483	530	354
株主資本 Shareholder's Equity	3,334	3,192	3,023
探鉱費 Exploration <sup>2</sup>	104	103	41

### 3. 主要鉱産物の生産・開発状況

#### 主要鉱産物の生産推移

	2002 年	2001 年	2000 年	2002 年の 世界シェア
金 (t)	177.8	190.5	116.4	6.8 % (3 位)

### 4. 沿革

バリック・ゴールド社(以下、「バリック社」)が金事業に参入したのは1983年のことである。新参の非鉄メジャーであるが、探鉱事業の成功、大規模な企業買収を通して急速に成長し、2000年末現在、アングロ・アメリカン社、ニューモント社、GFL社に次ぐ世界4位の金プロデューサーとなっている。

1983年4月、Cons Summit Mines社がPetrolnc Resources社とBarrick Petroleum Corp.社を買収し、Barrick Resources Corp.社が設立された。同社は、「ヘッジを通して金価格の変動によるリスクを最小限にする」ことを基本理念として、83年末にRenabie 鉱山(オンタリオ)、1984年にCamflo 鉱山(ケベック)を買収し、Valdez Creek 鉱山(アラスカ)とあわせて金の生産を開始した。

85年、Mercur 鉱山の権益をGetty Gold Mine Co.社から買収して社名を旧アメリカン・バリック社(American Barrick Resources Corp.)と変更、87年にはネバダ州カーリン・トレンドのゴールド・ストライク鉱床帯に権益を取得して、金プロデューサーとしての地位を確固たるものとした。

89年、カナダにおける最初の自社開発鉱山として、アピティビ・グリーンストーン・ベルトのホルト・マクダーモット鉱山の生産を開始した。

92年、ニューモント社との間でカーリン・トレンド北部地域における共同探鉱に合意、互

<sup>1</sup> 2001年12月14日にバリック・ゴールド社はホームステーク社(Homestake Mining Company)を合併しており、2001年の財務情報・生産量は両者を併せたものとなっている。

<sup>2</sup> 2001年、2002年の探鉱費には鉱量拡大のための周辺探鉱を含む。

いの調査データを共有することで効率的な探鉱が可能になり、その後のカーリン・トレンド開発にはずみをつけた。

94年6月、ラック社を買収し、チリ、アルゼンチン国境に広がるエル・インディオ・ゴールド・ベルトの権益を取得、同年、アビティビ・グリーンストーン・ベルトの3つの鉱山の権益を取得した。

95年1月、企業活動のグローバル化に合わせて、旧アメリカン・バリック社からバリック社（Barrick Gold Corp.）に社名を変更した。

96年8月、Arequipa Resources Ltd.社を買収し、ラテン・アメリカではヤナコチャ鉱床に次ぐ大規模鉱床といわれるピエリナ・ベルト（ペルー）に権益を取得した。

01年にはホームステーキ社を合併し、同社の北米、オーストラリアの権益を取得し、世界第2位の金生産社となった。

バリック社はその成長の原動力となったヘッジによる取引を近年減少させてきたが、2003年11月に今後ヘッジによる取引は行わないと発表し、方針を転換した。

## 5. 事業内容

バリック社は主に金を対象として事業を展開している。

バリック社の主要活動拠点は北米であり、2002年の同社の金生産量の62%を占めた。北米の中でも米国カーリン・トレンド鉱床帯のゴールド・ストライク鉱区からの生産は、同社の生産量の36%を占めている。

### (1) 北米

米国ネバダ州カーリン・トレンド鉱床帯中北部にゴールド・ストライク鉱区（約40 km<sup>2</sup>）の権益を保有し、ベツェ・ポスト鉱山、メイクル鉱山を操業している。また、ネバダ州にラウンド・マウンテン鉱山、カナダ・オンタリオ州にホルト・マクダーモット鉱山及びヘム口鉱山、ブリティッシュ・コロンビア州にエスカイ・クリーク鉱山を保有している。

なお、ネバダ州のルビー・ヒル鉱山、カリフォルニア州のマクローリン鉱山、カナダ・ケベック州のブスケット鉱山は2002年に閉山した。

2002年主要権益保有鉱山による鉱石生産

オペレーション名	権益 %	鉱量 百万 t	タイプ	品位	生産量 (権益分)
ベツェ・ポスト (米国) Betze-Post	100	107	OP	4.7 g/t	43.9 t
メイクル (米国) Meikle	100	10	UG	12.4 g/t	19.9 t
ホルト・マクダーモット (カナダ) Holt-McDermott	100	1	UG	5.7 g/t	2.6 t
ラウンド・マウンテン (米国) Round Mountain	50	192	OP	0.6 g/t	23.5 t (11.8 t)
エスカイ・クリーク (カナダ) Eskay Creek	100	1	UG	31.0 g/t	11.2 t
ヘム口 (カナダ) Hemlo	50	39	UG、OP	3.3 g/t	16.7 t (8.4 t)

ゴールド・ストライク鉱区の鉱石のほとんどはシアンによるリーチングが難しい難溶鉱であり、トータルで17,500 t/dの処理能力を持つオートクレイブが備えられ、2000年には炭質工を処理するためのロースターも完成した（トータル処理能力12,000 t/d）。

89年1月、ベツェ鉱山（硫化鉱）とポスト鉱山（酸化鉱）の開発を含むベツェ開発計画が公表された。ベツェ・ポスト鉱山は、92年、旧アメリカン・バリック社とニューモント社との合意に基づくベツェ鉱山の拡張計画に伴い、鉱山名が改称されたものである。本合意は、

カーリン・トレンド北部地域の両社保有鉱区において深部低品位鉱の探鉱・開発を共同で実施するとしたもので、同時に旧アメリカン・バリック社保有の難処理鉱をニューモント社の所有するバクテリア・リーチング技術によって処理する契約（利益の50%をニューモント社に分配）が含まれていた。なお、本合意は共通で開発する部分が完了したため、2000年に終了している。2002年の同鉱山の生産量は世界5位、トータル・キャッシュ・コストはUS\$ 228/ozであった。

メイクル鉱山は、ベツェ・ポスト鉱山の北1マイル（約1.6km）に位置し、92年、尾鉱堆積場のボーリング調査で偶然発見された高品位鉱山で、2002年の生産量は世界21位、トータル・キャッシュ・コストはUS\$ 198/ozであった。

トータル・キャッシュ・コストに関して、ベツェ・ポスト鉱山で6%、メイクル鉱山で35%の上昇があったが、これは鉱石が低品位になってきているためである。

ラウンド・マウンテン鉱山は、Kinross Gold社とのJVで、世界第14位（2002年）の生産量を誇る。なお、2002年のトータル・キャッシュ・コストはUS\$ 187/ozであった。同鉱山は2008年までの操業を予定しているが、8km北方でGold Hillと呼ばれる鉱床を探索中である。

## (2) 南米

現在生産中の鉱山は、ペルー・ピエリナ鉱山のみである。チリ・アルゼンチンの国境をまたぐ金鉱床帯であるエル・インディオ・ベルトのエル・インディオ鉱山は2002年に閉山している。また、Homestake社が権益を有していたチリのAgua de la Falda鉱山も2002年に閉山した。

2002年主要権益保有鉱山による鉱石生産

オペレーション名	権益 %	鉱量 百万t	タイプ	品位	生産量
ピエリナ鉱山（ペルー） Pierina	100	70	OP	1.6g/t	27.9 t

- 1998年に生産を開始したピエリナ鉱山では鉱石が低品位になってきており、マイン・ライフは5年程度とみられている。
- 2002年4月に、ペルーで首都リマ北方550km、La Libertad県でAlto Chicama金鉱床を発見したと発表した。この地域は2001年にバリック社がペルー政府から入札により権益を獲得したものである。発表当初の予測資源量は3.5百万oz（金量）であったが、その後も同社は積極的な探鉱を続け、これまでに確定埋蔵量、予想埋蔵量を併せて7.2百万ozが計上されている。同鉱床の開発はすでに決定しており、2005年第4四半期に生産開始を予定している（年産535-560千oz、トータル・キャッシュ・コスト135-145\$/oz）。
- アルゼンチンでは、Veladero鉱床の開発が進んでいる。同鉱床のF/Sは2002年第3四半期に終了し、2003年から開発が始まった。埋蔵量は金量で11.1百万ozあり、年産525-550千ozで2005年第4四半期からの生産を予定している。建設費用は460百万ドルである。

## (3) タンザニア

タンザニアのビクトリア湖南方56kmに位置するブルヤンフル鉱山（Bulyanhulu）の権益を保有する。

2002年主要権益保有鉱山による鉱石生産

オペレーション名	権益 %	鉱量 百万t	タイプ	品位	生産量
ブルヤンフル鉱山（タンザニア） Bulyanhulu	100	27	UG	13.2 g/t	11.1 t

- ・ バリック社は、タンザニアのビクトリア湖周辺に 6,000km<sup>2</sup>以上の探鉱区を有しており、平坦で湿気が少ないため探鉱費が低いという理由から積極的に探鉱を行っている。
- ・ その中で、同社が 70%の権益を有す Tulawaka 鉱床はすでに建設が始まっている。同鉱床の埋蔵量は 526 千 oz で 2005 年第 1 四半期からの生産を予定している。
- ・ タンザニアでは、1999 年の Sutton Resources 社の買収時に獲得した Kabanga ニッケル鉱床に関して、ファルコンブリッジ社と JV を組むこととなった。権益比率は 50:50 で、開発に至った場合、ファルコンブリッジ社がオペレーターになる。

#### (4) オーストラリア

ウェスタン・オーストラリア州の Yilgarn 地域に 3 鉱山を保有する他、50%の権益を有するカルグーリー鉱山を操業している。

2002 年主要権益保有鉱山による鉱石生産

オペレーション名	権益 %	鉱量 百万 t	タイプ	品位	生産量 (権益分)
ブルトニック (オーストラリア) Plutonic	100	14	UG、OP	5.6 g/t	9.5 t
ローラーズ (オーストラリア) Lawlers	100	3	UG	4.6 g/t	3.5 t
ダーロット (オーストラリア) Darlot	100	8	UG	4.8 g/t	4.5 t
カルグーリー (オーストラリア) Kalgoorlie	50	194	OP	1.8 g/t	22.4 t (11.2 t)

- ・ ニュー・サウス・ウェールズ州の Cowal 鉱床を開発中である。同鉱床は元々 North 社が探鉱を実施していたもので、2001 年に Homestake 社が買収し、さらにバリック社による Homestake 社の買収でバリック社の権益となったものである。埋蔵量は 2.5 百万 oz と見積もられており、2006 年第 1 四半期から 220-230 千 oz/年の生産を予定している。

## 6. 探鉱戦略

### (1) 概要

バリック社は、企業買収などによって調査の進んだ有望鉱床の権益を取得し、開発前の最終段階の探鉱のみを自社で行うことで、低いリスクで確実に収益を上げることに成功してきた。しかし、近年の世界経済情勢の変化から、ジュニア・カンパニーの活動が低迷し、バリック社は自社の十分なインフラが整っている地域として、ペルー、タンザニア、オーストラリア、チリ・アルゼンチンの 4 地域について、自ら初期探鉱を実施することとしている。

2002 年の同社の探鉱費は US\$104.0 百万であり、主要非鉄金属企業中第 3 位であった。

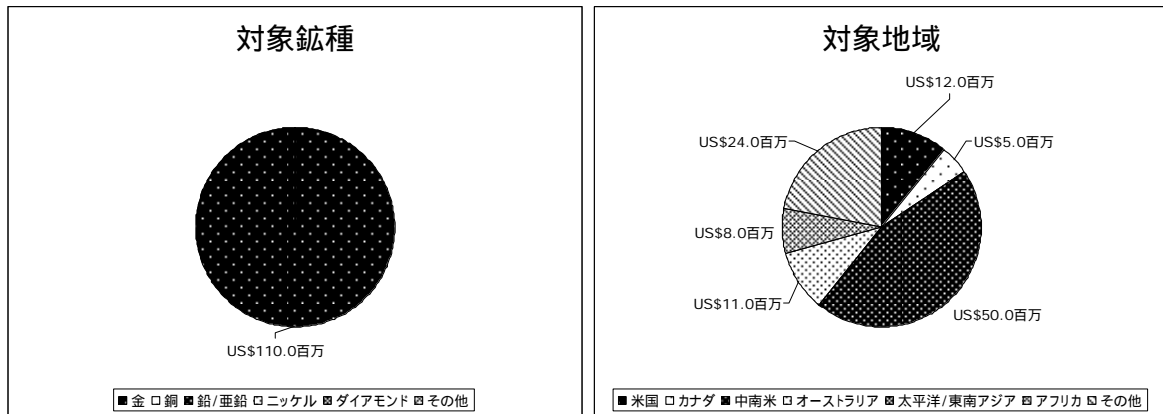
### (2) 対象鉱種

ほとんどの予算が金を対象としている。

### (3) 対象地域・探鉱段階

中南米地域に 45%の探鉱予算を充てているほかは、幅広い地域に予算を充てている。

探鉱段階に関しては、2003 年の探鉱予算はグラス・ルーツに US\$61.0 百万 (56%)、事業化調査に US\$42.0 百万 (38%)、鉱山周辺探鉱に US\$7.0 (6%) を充てている。



2003年の探鉱予算

(4) 最近の動向

バリック社は、上述したペルーの Alto Chicama 鉱床やアルゼンチンの Veladero 鉱床、タンザニアの Tulawaka 鉱床、オーストラリアの Cowal 鉱床の更なる探鉱に多くの予算を充てている他、既存鉱山・鉱床の周辺で主に初期探鉱を行っている。